



なかよし

津島市立南小学校
1年学年通信
令和3年10月26日

天は高く 雲は白い 秋です

運動会までのおうちでの励ましや体調管理、ありがとうございました。運動会当日とそれまでの練習で、子どもたちが力いっぱいがんばったことをおうちでほめてあげてください。また、先日の社会見学では、お弁当作りや体調管理など、ありがとうございました。行事が続きます。引き続き体調管理をよろしくお願いいたします。

11月の行事予定

3日(水) 文化の日

4日(木) 集金日

17日(水) 作品展

18日(木) 作品展

19日(金) 作品展

23日(火) 勤労感謝の日

29日(月) 個人懇談 13:40 一斉下校
あいあい集会

30日(火) 個人懇談 13:40 一斉下校

【12月の主な予定】

1日(水) 個人懇談 13:40 一斉下校

2日(木) 個人懇談 13:40 一斉下校
集金日

23日(木) 給食終了 冬休み前集会

24日(金) ~ 冬休み

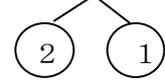
算数の学習

算数で、繰り上がりのあるたし算の学習をしました。次に学ぶ繰り下がりのあるひき算とともに、1年生の算数の学習の中で、とても重要な学習です。今後の計算の基礎ですので、ぜひ、ご家庭でも見ていただきたいと思います。1学期の10までの数の合成・分解の学習が基になっています。暗算でできるようになるまで、下のような補助計算(さくらんぼ計算)を書きました。□のような説明ができるか、どんどん言わせてみてください。

加数分解の場合

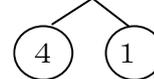
$$8 + 3 = 11$$

8に 2をたして 10
10と 1で 11



被加数分解の場合

$$5 + 9 = 14$$



9に 1をたして 10
10と 4で 14

漢字の学習

毎週金曜日は、新出漢字を学習し、1週間練習した漢字のテストの日にして6週目になりました。毎週の漢字テストも、テストファイルにとじて持ち帰りますので、がんばりを見て、ほめてあげてください。正しい筆順で書くように指導しています。おうちでも声かけしていただくとありがたいです。

ありがとうございました

作品展に向けて、どんぐりやまつぼっくりなどの秋の木の実や花を集めていただいて、ありがとうございました。あさがおのつるで作ったリースの飾りや、お面作りなどに活用させていただきます。子どもたちの作品を楽しみにしててください。

* 作品展の保護者鑑賞日については、9月13日にお配りした『学習発表会の中止・それにかわる行事の実施について』をご覧ください。

* 11月の生活科では、「みんなみんな 大すきだよ」の学習で、おうちの人と相談してお手伝いを決め、取り組む予定です。その際には、『ぼく・わたしのしごとひょう』を持ち帰りますので、記録した後に「いのひとからのひとこと」を書いていただくようよろしくお願いいたします。

読書のチカラ

読解力・表現力の基本の



南雲ゆりかさん

なぐも・ゆりか / 東京都生まれ、兩害国語教室(東京都)主宰。「正確に読む力、伝える表現力」の育成をモットーに指導にあたる。

すべての学習の基本 「読書習慣」は3ステップで身につける

10月27日から読書週間が始まります。読書のメリットはわかっているけれど、子どもの読書嫌いに手を焼いている方も多いのではないかと思います。

今回は、本を読めない、なかなか読まない子どもたちを活字の世界に引き入れる方法を考えてみたいと思います。

好きな本を好きなように読むのが読書の本来のあり方ではありますが、そこまで到達できていない子がたくさんいます。

読書も計算練習や漢字書き取りと同じように、大事な基礎学習です。そのことを子どもにも伝えて、本を読む時間を確保してください。夕食の後など、決まった時間に設定すると習慣化しやすいでしょう。

読む力が未熟なうちは、子どもの好みや興味に合わせて、だんだんいろんなジャンルのものが読めるように手助けしていきます。

●ステップ1 字の多い絵本を一緒に読む
絵本は読めるけれど、まだ文章量の多い本は読めない子の場合、字が多めの絵本を一緒に読むところから始めましょう。

できれば、余韻の残る、考えさせられる内容の絵本を読ませたいものです。たとえば、次のような名作といわれる絵本です。



おすすめの絵本

- 『ちいさいおうち』(バジニア・リー・バートン、岩波書店)
- 『ピロートのうさぎ』(マージェリィ・W・ピアンコ、プロンズ新社)
- 『手ぶくろを買いに』(新美南吉、偕成社)
- 『モチモチの木』(新藤隆介、岩崎書店)

もし、子どもが本を気に入って繰り返し読みたがったら、「何度も読むのはすごくいいことだよ」と背中を押してあげてください。精読につながり、読む力が伸びていきます。

●ステップ2 娯楽性の高い作品から一人で読み聞かせたり、一緒に読んだりする一方で、一人でも読めるように導いていきましょう。ちょうどいいのが、『かいけつゾロリ』(原ゆたか、ポプラ社)や『おしりたんてい』(トルロ、ポプラ社)。大人気作品です。漫画的な要素がありながら文章もしっかりと書かれていますので、読書初心者にはうってつけです。おもしろそうだから先を知りたい、でも絵だけでは内容がわからないから読まなくちゃ、というようにどンドン読めてしまいます。

次は、もう少し文章量の多いものにシフトしていきます。たとえば、寺村輝夫の「ぼく

は土さま」シリーズ(理論社)や、矢玉四郎の「はれときどきぶた」シリーズ(岩崎書店)です。楽しい絵がたっぷり載っていますが、漢字(読み仮名付き)を使ったきちんとした文章で書かれているので勉強になります。親世代にもおなじみの作品ですね。

もっとページ数の多い本を読めるようになる足がかりとしては、アニメや映画のノベライズ作品がおすすめです。漢字が増え、語彙のレベルも高くなりますが、映像で見たことがある作品なら苦にならないでしょう。むしろ映像と結びつけながら語彙を増やせます。

ノベライズ作品を読み通すことができれば、同じようなサイズの児童向けの文庫本にもチャレンジできるようになってきます。児童向けの文庫本は、物語はもちろん、ノンフィクション、説明文、伝記、随筆と、種類も豊富です。1冊読み通せなくても構わないので、いろんなジャンルのものに手を出してみて、好みの本を探させるとよいと思います。

●ステップ3 物語以外の読み物にも親しむ
物語を中心に紹介してきましたが、今は、子ども向けの科学系の読み物や社会に関する本などがたくさん出版されています。物語よりもこうした本に興味を示すようなら、読む練習としてまずはこれらを活用するとスムーズかもしれません。

反対に、物語ばかりを好む子には、親が手助けしながら、科学系の本なども読めるようにするとよいでしょう。中学入試ではかなり難しい説明文や論説文が出題されるからです。低学年のうちに、科学や社会に関する本に親しんでいけば、抵抗なく取り組めるようになります。

児童書には、大人が読んでおもしろいものもたくさんあります。ぜひ親子で同じ本を読み、感想を交わすなどして、読書経験を共有してみてください。

1~3年生に!

おすすめの本



- 『トレモスのパン屋』(小倉明、くもん出版)
- 『言葉屋 書籍と言葉のひみつ』など「言葉屋」シリーズ(久米親美里、朝日学生新聞社)
- 『チームふたり』など「チーム」シリーズ(吉野万理子、学研プラス)
- 『きまぐれロボット』(星新一、理論社など)
- 『オランウータンってどんな「ヒト」?』(久世通子、朝日学生新聞社)
- 『今泉先生のゆかいな動物日記』(今泉忠明、KADOKAWA)
- 『さかなクンの一魚一会 まいにち夢中な人生!』(さかなクン、講談社)